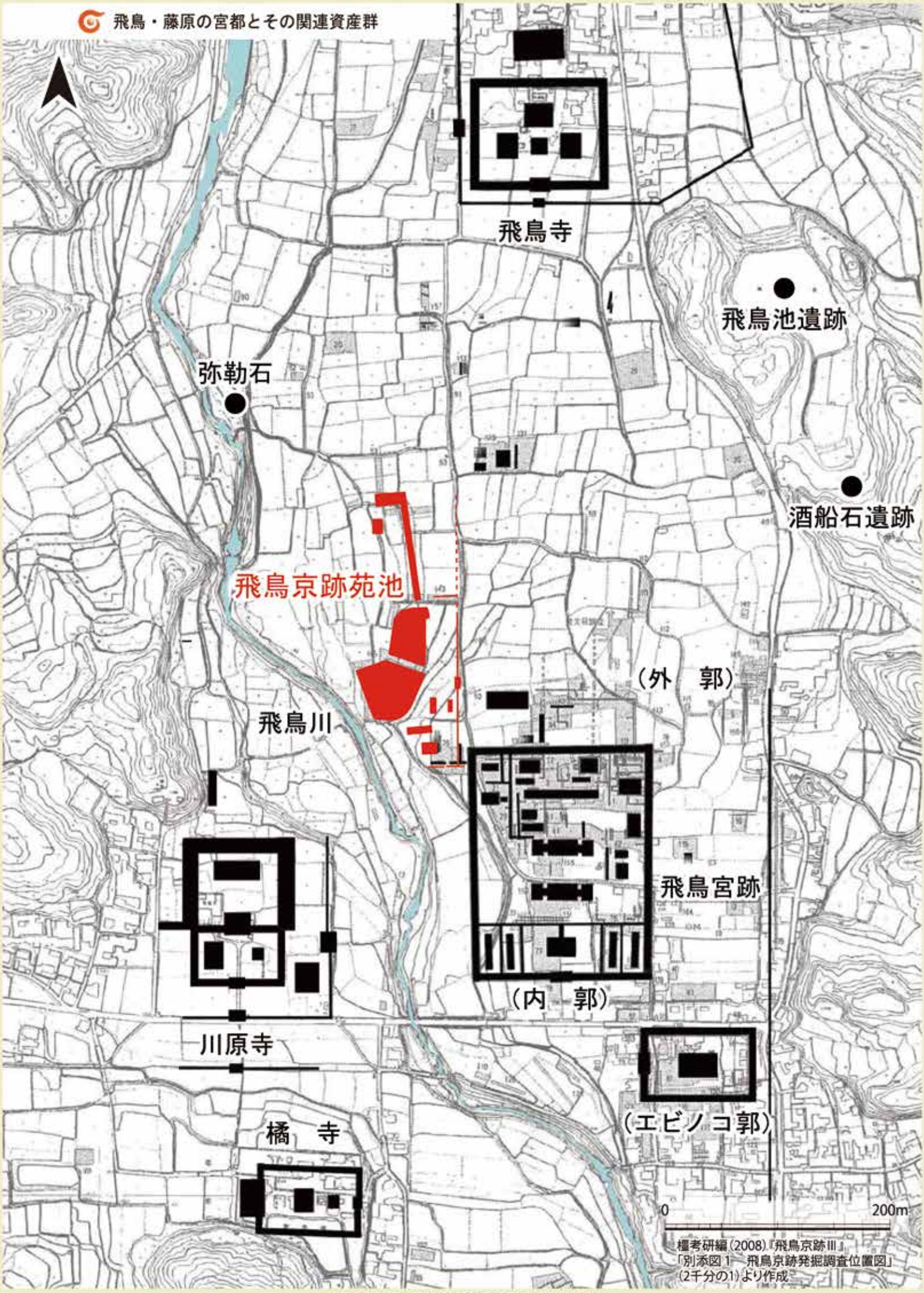
史跡・名勝 **飛鳥京跡苑池** 第15次調査

（飛鳥京跡第186次調査） 現地説明会資料

2021年12月4・5日

令和3年度　日本博主催・共催型プロジェクト
主催　文化庁　独立行政法人 日本芸術文化振興会
奈良県立橿原考古学研究所

調査区全景（北東から）



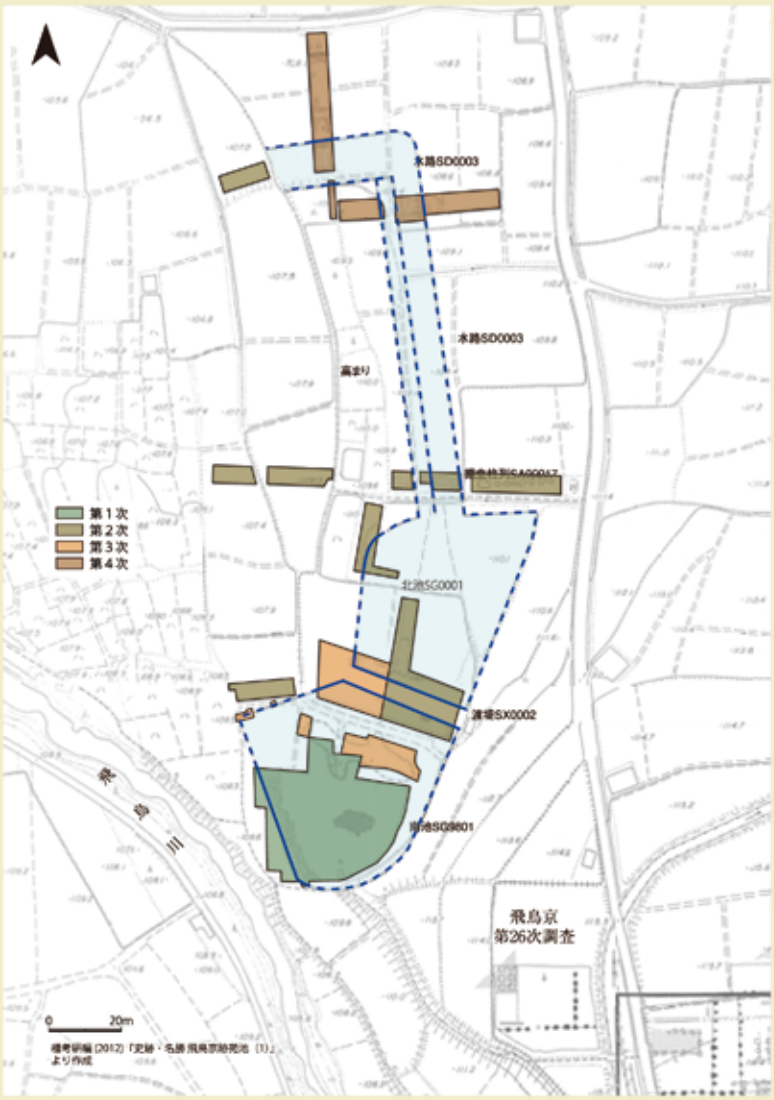
橿考研編（2008）『飛鳥京跡Ⅲ』
「別添図 1　飛鳥京跡発掘調査位置図」
（2千分の1）より作成

飛鳥京跡苑池と周辺の主要遺跡

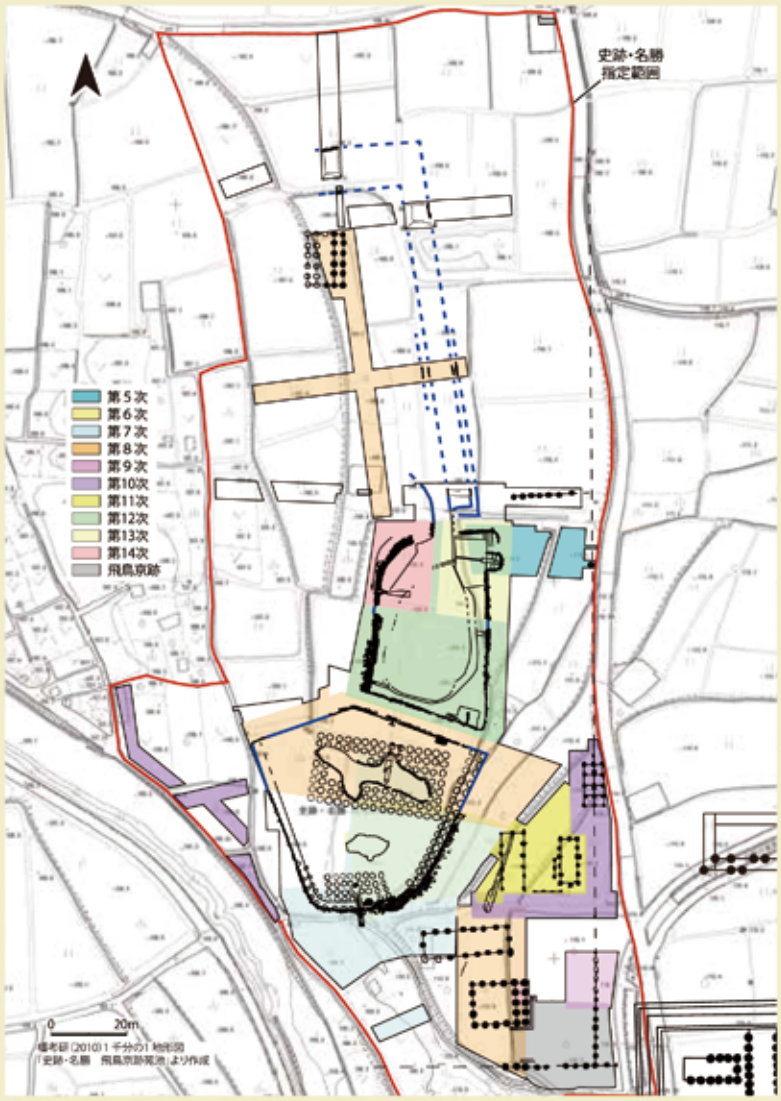
調査次数		調査期間	調査面積（㎡）	主な検出遺構
苑池	飛鳥京跡			
1	140	H11(1999).1.18 ～ 8.10	1,000	南池
2	143	H12(2000).11.27 ～ H13(2001).4.20	900	南池・北池・渡堤・水路・掘立柱塀
3	145	H13(2001).5.7 ～ 8.14	550	北池・渡堤
4	147	H13(2001).11.19 ～ H14(2002).2.28	430	水路
5	169	H22(2010).12.1 ～ H23(2011).3.31	320	北池
6	170	H23(2011).8.1 ～ 12.21	980	南池
7	173	H24(2012).8.1 ～ H25(2013).1.31	2,025	南池
8	174	H25(2013).6.3 ～ H26(2014).3.3	3,000	南池・水路・掘立柱建物・石列
9	175	H26(2014).6.2 ～ 8.8	234	掘立柱建物・掘立柱塀
10	176	H27(2015).5.25 ～ 10.3	902	掘立柱建物（門）・掘立柱塀・石列
11	178	H28(2016).6.6 ～ 7.26	544	掘立柱建物・石列
12	180	H31(2018).5.8 ～ 12.3	2,065	北池
13	182	R 元 (2019).5.16 ～ 9.13	476	北池
14	184	R2(2020).9.8 ～ 11.13	382	北池
15	186	R3(2021).9.28 ～継続中	1,150	北池・水路

範囲確認調査事業による　　史跡・名勝 飛鳥京跡苑池保存整備活用事業による

飛鳥京跡苑池における発掘調査一覧



第１～４次調査区



第５～14 次調査区

第８次調査　水　路（北から）

第 13 次調査　北池流水施設（西から）

第 14 次調査　北池北西部（北東から）

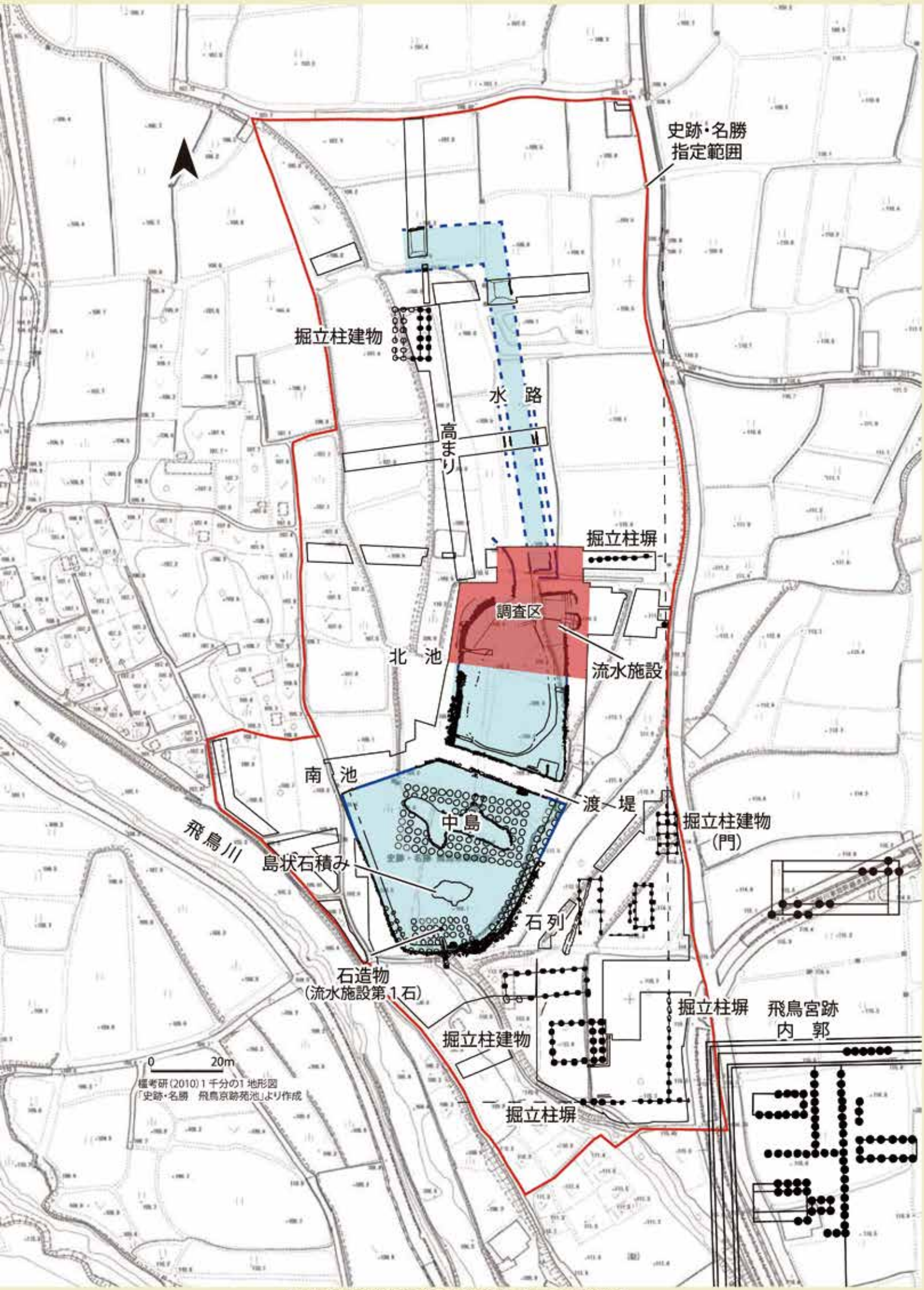
第 12 次調査　北池南半部（南東から）

第３次調査　渡　堤（南西から）

第８次調査　南池北半部と中島（北東から）

第７次調査　南池南東部と島状石積み（北西から）

第１次調査　南池流水施設第１石（北東から）



飛鳥京跡苑池の遺構配置と今回の調査区

北池～水路合成写真（上が北）

水路南端部垂直写真（上が北）

水　路（北から）

西石積み（北東から）

南北方向石組溝（北から）

砂利敷き（北東から）

はじめに

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池は、飛鳥川右岸の河岸段丘上に立地する飛鳥時代の庭園遺跡です。平成 11（1999）年に橿原考古学研究所が実施した発掘調査で、はじめてその存在が明らかになりました。

飛鳥京跡苑池は、これまでの発掘調査で、南北２つの池（南池・北池）と渡堤、水路、掘立柱建物、掘立柱塀などで構成されることがわかっています。遺跡の範囲は、南北約 280m、東西約 100mです。

平成 22（2010）年度からは、飛鳥京跡苑池の整備にむけ、継続的に発掘調査を実施しています。今回の調査は、北池と水路の関係、水路の構造、北池池底の様相を明らかにすることが目的です。

発掘調査の成果

１．検出遺構

発掘調査の結果、水路および水路周辺の石積み、第 13 次調査で検出した南北方向石組溝の北延長部のほか、砂利敷きを検出しました。

水　路　水路の南・東・西護岸を検出しました。各護岸は、ほぼ垂直の石積みで、南護岸の長さは約５m、東護岸の長さは５m以上、西護岸の長さは６m以上、高さは１～ 1.2mです。水路南西隅には、北池から北へのびる南北方向石組溝が接続します。水路内の堆積土中からは、木簡が複数点出土しています。その内容については、現在整理中です。

水路周辺の石積み　水路の南・東・西において、石積みを検出しました。南石積みは、水路南護岸の南約２m、北池北護岸の北約 4.5mに位置します。石積みはほぼ垂直で、長さは６m以上、高さは約 0.6mです。西端は、平安時代の堤の構築によって破壊されています。

東石積みは、水路東護岸の東約 1.8mに位置します。石積みは、本来階段状であった可能性がありますが、部分的にしか遺存していないため、明確ではありません。長さは 7.5m以上、高さは 0.2m以上です。南端は、南石積みに接続します。

西石積みは、水路西護岸の西５～７mに位置します。角度を変えながら北西方向にのびます。石積みはやや傾斜を持っていて、長さは 14m以上、高さは約１mです。第 14 次調査で検出した南北方向石積みの北延長部にあたります。

南北方向石組溝　南北方向石組溝は、長さが約 14m、幅（内法）が約 0.6m、北端部での深さが約 0.4mです。水路の南西隅に接続します。溝西側の石列は、途中でその角度が変わり、水路西護岸に接続します。溝東側の石列は、水路南護岸に接続しますが、平安時代の堤に据えられた木樋との重複部分は、その敷設によって石材が取り除かれています。

砂利敷き　水路の護岸と周辺の石積みの間や南北方向石組溝の両側、東石積みより東および南石積みと北池北岸の間で検出しました。水路南護岸と南石積みの間は上面に５～ 20 ㎝大、そのほかは２～ 10 ㎝大の礫を敷いています。水路西護岸と西石積みの間の砂利敷きは上面が西護岸に向かって、東石積みより東の砂利敷きは上面が北東から南西に向かって下がる傾斜を持ちます。

２．北池と水路の関係

今回の調査で、水路南護岸を新たに検出したことから、水路東護岸と北池北岸、水路西護岸と北池北西岸が、直接取り付く構造ではないことが確定しました。北池と水路は、南北方向石組溝で接続していて、北池内の余剰水を南北方向石組溝を通して水路に排水する構造であることがわかりました。

３．北池池底の様相

池内付属施設斜面の砂利敷きが、池中心部に向かって緩やかに傾斜することを確認しました。よって、北池の最深部は、北池中央のやや南寄りに位置することが想定可能となりました。

北池満水時の水面の高さは、南北方向石組溝南端付近での底面の標高から、約 107.4mであったと想定できます。これまで確認できた池底敷石上面の標高は、最も深いところで約 105mです。よって、北池の水深は２m以上と判断できます。

まとめ

今回の調査では、水路南護岸および水路周辺の石積みを検出したことから、水路南端部およびその周辺の構造がはじめて明らかとなりました。これによって、北池と水路との関係性を確定することができました。また、北池池底の様相なども明らかとなりました。

平成 22（2010）年度から継続的に実施してきた飛鳥京跡苑池に対する一連の発掘調査によって、主要な構成要素である南池、北池、水路の規模や構造、各部の変遷等を明らかにすることができました。ここまで、10 年以上にわたる発掘調査によって、飛鳥京跡苑池の内容をかなり明確化できたといえます。

©TMK-ai
イワミン
奈良県立橿原考古学研究所
マスコットキャラクター

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池　第 15 次調査（飛鳥京跡第 186 次調査）　現地説明会資料
2021 年 12 月 4・5 日　奈良県立橿原考古学研究所　〒634-0065　奈良県橿原市畝傍町１番地
Tel.0744-24-1101　http://www.kashikoken.jp（過去の現地説明会資料は、こちらからご覧いただけます。）⇒